
おれはまだ本気をだしていないだけ～きっと第2、第3の封印があるっ！...はず。番外編？

ソバット

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おれはまだ本気をだしていないだけ〜きつと第2、第3の封印があるっ！…はず。番外編？

【Nコード】

N7897Z

【作者名】

ソバット

【あらすじ】

おれはまだ本気をだしていないだけ〜きつと第2、第3の封印があるっ！…はず。の番外編？です。

興味があつたら読んでください。

とある約束。（前書き）

初心者の矛盾点、おかしい描写などはあたたかい目で見守ってください。

とある約束。

ある日兄さんが消えた。約束したのに。
わたしから離れないって。
何処に行ったの兄さん。

「兄さん、迎えに来てくれたんですか」

「まあ暇だったからな」

「言つて悲しくなりません？
今日は恋人達クリスマスの聖夜ですよ。
ヘタレの兄さんに恋人はいないでしょうけど・・・
せめて友達とくらい遊びに行きましようよ。」

そんなこといわれても仕方がないわけだと兄さんは言葉を濁す。

「・・・あのな。」

別に友達がいけない訳ではないんだぞ。
ただみんな彼女とかバンドの練習とか忙しい訳で。
く、くそあのリア充どもがっ！！」

あれおかしいな涙が出てきたよ。兄さんが手で眼をこする。

「ああ、分かりました。兄さんがどうしようもないバカだと言っこ

とが。」

「おいこら、どういうことだ。」

あれおかしいな涙が出てきたよ。兄さんが手で眼をこする。

「ああ、分かりました。兄さんがどうしようもないバカだと言つてとが。」

「おいこら、どういうことだ。」

「ふふ、教えませんよ」

だれが教えるもんですか。

兄さんはすぐに調子にのるんですから。

一緒に町外れの公園を通ります。

兄さんは知らないで歩いているんでしょうけど。ここクリスマスデートスポットのひとつなんですよ、ライトアップがきれいだと有名な。

だから

「兄さんも端から見たらリア充ですよ。」

「なぜに?」

「デートスポットでこんなにかわいい子と腕くんで歩いてたら当た

り前じゃないですか。」

兄さんはあたりを見渡して赤面する。
かわいい、そう思ってしまったわたしはわるくない。

そのまま話すことなく足を進めます。

公園の中央、大きな噴水の前についたとき兄さんが大きな古い革
張りの本をわたしました、わたしに。

年季の入ったその本はわたしが欲しかったものでした。

「少し早いけどクリスマスプレゼントだ。」

兄さんはすこし恥ずかしそうにはにかみました。

「ありがとうございます。で、今度は一体何処まで行ってきたんですか。」

「うん、ちょっとイギリスまで」

ちよつとでコレを見つけれられる兄さんはすごいと思います。

兄さんのモノ探しの才能はすごいと思います。

どうやって魔術師でもないのに貴重な魔導書とか手に入れて来るんですしょう？

謎です。

「あ、後ね。これ」

銀細工の凝ったリングネックレスを渡してきました、これも案の定すごい魔力が籠もっています。

「お誕生日おめでとう、ふうり。」

「ありがとうございます／＼。」

毎年クリスマスプレゼントと誕生日プレゼントは一緒にしていいと言っていますのに。

「でも、兄さんこれペアリングですよ。」

「ふーん。」

「なにがふーんですか。一人でペアリングをつけるとかただのかわいそうな人じゃないですか。」

「ちょ！？、ふうり。なにを／＼。」

なにをつて、顔をすこし近づけただけではないですか。

兄さんはうぶですね。

リングの片割れはわたしの左手の薬指。もう一方は兄さんのむねもとに収まりました。

そしてわたしも兄さんのむねもとに収まりました。

兄さんは慌ててますが知りませんよ。

「兄さんはわたしからいなくなったりしませんよね。」

「……うん、命が続く限りずっと。」

そこは死んでもずっと位はいつて欲しかったです。
こわいですが。

「はい、クリスマスプレゼントですよ。」

わたしが渡したのは革張りの手帳。
もちろんただの手帳ではないですよ。

兄さんがいつでもわたしのところに帰ってくるように。
変な虫が兄さんにつかないように。魔術をたっぷりかけています。

「ありがとう、肌身はなさず持つとくよ。」

そう言われるとさっきまで頑張ってた作っていた甲斐があります。

あ、そういえば。

わたしは2つもプレゼントをもらったのです。
ふふ、おもしろいと思いました。

兄さんに頭を近づけ、わたしと兄さんの距離はゼロになりました。

兄さん、そんなに顔を赤らめないでください。
わたしまで恥かしくなるではないですか。

その場のぎにわたしはその場を駆け抜けた。

兄さんわたしはあなたが好きですよ、家族として、異性として。

魔術の世界では近親相姦だって合法なんですから。

わたしはいつでもバッチコーいなんですからね。
兄さん、わたしの騎士さま。

.....なの、にゅっ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7897z/>

おれはまだ本気をだしていないだけ～きっと第2、第3の封印があるっ！...は

2011年12月25日13時48分発行